授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2516 号

Soluble CD30 Level in the Sera of Patients With Psoriasis in Myanmar

ミャンマーにおける乾癬患者の血清中可溶性 CD30 値の評価

Myat Sanda Kyaw（みあっと　さんだ　きおー）

博士（医学）

論文内容の要旨

乾癬は Th1 免疫応答が優位に関わる疾患とされているが、最近の報告では、Th2 免疫応答も病態形成に関与していることが明らかになってきている。CD30 は主に Th2 免疫が優位な疾患との関連が報告されているが、乾癬の病態において CD30 の役割を再度評価する必要があると考えた。

本研究では、2017 年から 2018 年にかけてミャンマー第 2 医科大学皮膚科を受診した乾癬患者 79 人の血清を採取し、健常人 39 人の血清を対照として、ELISA 法を用いて血清中可溶性 CD30 濃度を測定、比較し、乾癬の病型、重症度など疫学的データ、臨床症状との関連を評価した。

解析の結果、血清中可溶性 CD30 濃度は患者全体で上昇傾向を示し、家族歴を有する患者では有意に高い値を示した。

局面型病変を有する患者の測定値は高い傾向、一方、関節病変、爪病変を有する患者では、低い傾向がみられたが、これらは統計的に有意な相関はみられなかった。

罹病期間に応じて血清 CD30 値は高値となり、罹病期間が 10 年を超える乾癬患者の血清 CD30 レベルは、疾患期間が 10 年未満の患者の血清 CD30 レベルよりも高い値であった。

罹病期間と血清 CD30 値の間には有意な正の相関がみられた。

乾癬において血清 CD30 値の上昇は、疾患の期間と関連しており、慢性化した乾癬の有用なマーカーになりうることを示唆している。乾癬の病態において CD30 の役割を解明するにはさらなる研究が必要である。